

6. 教育システムと教育スケジュール

(1) 教育指導システム

本校は時代で求められる医療、福祉分野（理学療法、作業療法、視能訓練、言語聴覚、診療情報管理）のスペシャリストの養成を目指して幅広い実学教育を行っている。この目的を達成するため、本校における教育への取り組み方を明確に示して、日常の講義、実習、学外研修、卒業研究などを運営している。そして、この考え方をシステム化、スケジュール化して学生の皆さんにわかりやすいように指導を行う。

教育スケジュール

高校・大学・社会人 (入学前)		職業人教育 (在学中)				業界 (卒業後)	
		基礎教養・専門基礎	専門	専門・学外実習			
プレ ス ケ ー ル	理学療法	基礎教養 マナー教育 科学的思考	解剖・生理の専門 基礎、面接OSCE 見学実習	疾病と障害の成り立ち 理学療法の評価 理学療法治療理論と実技	病院・施設実習 海外研修 卒業研究	業界 （卒業後） の 実 績 を 示 す た り ま た は 大 学 院 （ 職 業 ） 博 士 学 位	
		基礎教養 マナー教育 専門基礎医学	理学療法の基礎 検査・測定 見学実習	疾病と障害の成り立ち 理学療法の評価 理学療法治療理論と実技	病院・施設実習 ケーススタディ 卒業研究		
	作業療法	基礎教養 マナー教育 科学的思考	解剖・生理の専門 基礎、面接OSCE 見学実習	疾病と障害の成り立ち 作業療法の評価 作業療法治療理論と実技	病院・施設実習 海外研修 卒業研究		
		基礎教養 マナー教育 専門基礎医学	基礎作業学 検査・測定 見学実習	疾病と障害の成り立ち 作業療法の評価 作業療法治療理論と実技	病院・施設実習 ケーススタディ 卒業研究		
	視能 3年制	基礎教養 マナー教育 科学的思考	解剖・生理の専門 視覚機能基礎 視能矯正総論	疾病と障害の成り立ち 視能検査学 視能訓練理論と実習	病院・施設実習 海外研修 卒業研究		
	視能 1年制	マナー教育 科学的思考 視覚機能基礎	疾病と障害の成り立ち 視能矯正総論・視能検査学 視能訓練理論と実習	病院・眼科医院実習			
	言語	マナー教育 科学的思考 基礎医学	臨床医学 ことばの相談実習 見学実習	疾病と障害の成り立ち 言語聴覚法の評価 言語聴覚療法の治療と実技	病院・施設臨床実習		
	診 情 管	一般教養 マナー教育 医療教養	診療情報管理士 基礎 社会福祉士基礎	診療情報管理士専門 社会福祉士専門	病院・施設実習 海外研修 卒業研究		専 攻 科
	キャリア形成	キャリア設計					キャリア指導
	キャリア教育						

まず、1年次の前期は基礎科目をしっかりと学び、また資格検定試験にも積極的に取り組む時期で、「知る」ことに重点をおいている。後期に入ると専門科目が始まるので、将来の仕事を見据えて技術と知識の充実を図る「考える」時期となる。卒業年次から就職活動が始まるので、それまでの期間に就職への準備、つまりマナーを身につけ、業界の情報を収集して、さらに一般教養試験の対策も行わなくてはならない。

卒業年次になると前期は就職活動や学外研修などが集中し、「動く」ことが大切な時期である。さらに後期には卒業研究に取り組んでこれまでの学習を「まとめる」ことになる。また、国家資格取得に向けて全員が合格できるように、試験対策が組み込まれている。

本校におけるさまざまな行事はすべてこの教育システムに基づいて運営されているので、講義や実習以外の学外研修や学生会行事などにも積極的に参加して、学生時代を有意義に過ごしてほしい。

(2) 海外研修プログラム

本校ではカリキュラムの一環として、海外研修プログラムを取り入れている。このプログラムの目的は、海外における技術教育と実務の現状を実際に体験して、それまでに学んだ知識や技術の重要性を再確認し、さらに国際交流を通じて豊かな人間性を育むことである。

おもな提携先大学

① ロマリンド大学

アメリカ・カリフォルニア州・ロサンゼルス

ロマリンド大学附属病院、外来リハセンター、施設見学・研修

② クローバーパーク・テクニカルカレッジ

アメリカ・ワシントン州・レイクウッド

病院・ホスピス見学・研修

③ カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校

アメリカ・カリフォルニア州・カーソン

病院見学・研修

(3) 生涯教育システム

本校の母体である学校法人滋慶学園では、「滋慶医療科学大学院大学セミナー」「医療・福祉マネジメントセミナー」など学びの場を設けて、リフレッシュ実務教育セミナーを実施している。さらには学科主催による専門職の学科セミナーや公開セミナーなど卒業生を対象としたセミナーを随時開催している。時々刻々、変化を遂げている医療、福祉分野で働く卒業生たちに新しい技術や知識を学ぶ場を提供し、時代のニーズに対応できる人材として積極的かつ自立的に学んでいけるようバックアップしていくことが目的である。